

## 選考委員会における委員のコメント

### 上越教育大学附属小学校

#### 体験と言語活動から考える実践的な著作権意識の育成～子ども記者による地域・朝市の発信活動を通して～

- 教科（国語）と総合的な学習の時間による横断的なダイナミックな取り組みであり、また、体験活動や言語活動を充実させているすばらしい実践である。子どもたちが自ら課題を見つけ、自主的に学んでいる場面についてもう少し記述されていればなお良いと感じた。
- 小学3年生という難しい学齢で、ほぼ2学期間を通して段階的に発展させながら継続した事例で、すばらしい。ただ、報告書の書き方としては、小見出しを付けるか、箇条書きにした方が、さらに理解を助けると思われる。国立学校のプラスの面が活かされた実践記録である。
- 情報発信に関する体験学習活動を通じて責任ある情報発信を学ぶ過程で、著作物の取り扱いに注意を向け大切にする態度を、クラスでの討論を活用して学んだ実践。「真似すること」と「パクリ」と「ヒントにすること」など小学校中学年での取り扱いに適した題材を適切に扱っている。
- 授業の様子がわかる写真があり、より実践しやすい内容になっている。報告内容をもっとわかりやすいようにすることで、他校により実践しやすい報告書となると思われる。
- 総合的な学習の実践として、「心が動いたものを取材する」という視点はとても興味深い。他の実践の多くは「地域を紹介しよう」というパターンだからだ。ただ、著作権教育の実践として考えると、「朝市」の実践は弱く、「あわせうた」の方が評価できる。「あわせうた」では、話し合いを通して、子どもたちから著作権の気持ちや許諾について生まれている点がすばらしい。
- 身近な体験を通じた著作権教育の育成指導は、小学校低学年には適切である。
- 全体の流れが良い。先生の積極的な意思、熱意が伝わってくる授業を伺うことができた。特に情報発信を軸に、地域の特徴である朝市の取材から著作権教育へ繋げ、子どもたちが実際に取材して体感した、コミュニケーションからの著作権の大切さや著作権者の気持ちを感じ取っていることが分かる。また、パブリックとプライベートを区別して自分の言動の影響を考えさせたこと、「まねること」を考えさせたことは著作権教育の原点ともいえ、重要なポイントである。
- 上越市という地域の素材を活用、身近な回りにあるテーマからフリーペーパーを製作することを通じて、情報発信する時に気をつけることから著作権を学んだ。先生は著作権の重要性を示し、子供たちは著作者の心情や権利を考えて行動し、著作権意識の向上に

繋がっていくことを評価。

- 知識を注入するのではなく、取材活動、フリーペーパーの作成など体験的な学習の中で著作権について実践力をつけようとしているのは評価できる。しかし、この授業実践で、著作権に体する実践力が身についたということが読み取れない（弱い）。国語の実践においては、子どもたちが自ら著作権に必要性に気づくしかけを教師がつくっており、そういった中、著作権の権利、法で守られていることを示すなど効果的な授業実践である。指導案、板書、子どもの反応など資料が充実している。

以上